



大学と地域の連携によるモデルプロジェクトが実施されました

麻布大学による
河川環境セミナー（11／28）

11月28日（日）、市内の相模川河川敷と麻布大学で、「親と子の河川環境セミナー～身近な自然を工作（アート）しよう！」が開催されました。

この事業は、大学の研究活動を地域に還元するとともに、身近な相模川への理解を深めることを目的に実施されました。



事業の実施にあたっては、教員と大学生が共同でプログラムを開発し、市内のNPO法人や相模川を愛する会の事業協力、近隣の高校生ボランティアの参加による裾野の広い連携が実現しました。

当日は、河川敷での岩石・生物の採取や、大学でのアクセサリーづくりなど、自然に親しむプログラムが用意され、参加者の親子や学生との交流が深められました。

相模女子大学による
木もれびの森ふれあい交歓会（12／11）

12月11日（土）、市内の木もれびの森で、「雑木林の活用方策の研究」と「地域住民との交流の場づくり」を目的とした「木もれびの森ふれあい交歓会」が開催されました。

この事業は、相模女子大学と、木もれびの森ジュニアボランティアの子どもたち、森林ボランティア相模原こもれびのボランティアの連携により実施されたものです。



参加した子どもたちや学生は、ヘルメットをかぶり、森林ボランティアの指導を受けながら、高さ十数メートルの木を伐採したり、カブトムシの幼虫を育てる堆肥場づくりなどの環境保全活動に取り組みました。

また、森の恵みを活かした「どんぐりクッキー」と「どんぐりパン」が大学食物学科から提供され、参加者に大好評でした。